と型に嵌まったものではない。又，1. 諺語の(4)として掲げている Tamthil（加用引子的譬喩）に Lain dulang lain kaki, lain orang lain hati.（人心不同←盆が違えば脚も違うように人が違えば心も違う）を引用しているが，これは厳密に言って彼の説くように第一句が「引子」で第二句が「叙述」ではない。第二句は第一句の単なる繰り返しに過ぎない（参照：Banyak orang banyak muka-nya. 十人十色)。次のような例をこそ掲げるべきであろう。Biar lambat, asal selamat.（急がば廻れ←ゆっくりやれば，安全)，Tahu makan, tahu simpan.（食べ方を知る者は，保つ法を知る）

マライの韻文は，もっと大局的，有機的見地からの考察がなされねばならない。分類を行うのに性急になったため，それの説得力が弱い感じの論であるが，試みとしては面白い。なお，散文も5種に分類しているが，大体同じことがいえる。（崎山　理）

Elinor C. Horne: *Beginning Javanese.* Yale University Press, New Haven and London, 1961. xxiii＋560p.

Yale Linguistic Series として，今まで，Russian と Chinese とが出ていたが，表記のようにジャワ語がこれに加わった。本書はこの表題から想像されるような「初学者」のためだけの入門書では決してなく，ある程度のジャワ語の知識を持つものにも，大いに活用し得るだけの内容を備えている。この書を作るために相当数のインフォーマントを得て，正確を期したことが序文からも知れるし，内容の構成法も，最近，諸外国語の速成教育に適用されて相当の効果を示しつつある Language Laboratory (L. L.) 方式に従って述べられており，文法用語を中心としてそれを各項目に分け，説明するという従来の形式を全く採用していない。即ち，Lesson 1. WHO'S WHO, 2. WHAT'S WHAT, 3. DAILY ACTIVITIES…といった具合に，最初から会話でもって易から難へと進む仕組みになっているが，文法事項を調べるための索引も比較的良く作られてある。

ジャワ語には，周知の如く，やかましい敬語法があり，丁寧な用法を Kråmå [krɔmɔ]（更に上流階級同志で用いるのを Kråmå inggil)，卑近な用法を Ngoko と称え，ジャワ語学習者はまずこの難関にぶつかるのであるが，この書では各 Lesson を Section A, B と分け，同じ文例をそれぞれの用法によって示しているのも，これまでのこの点の説明に関してとかく難渋の多かった文法書に比べて，強調されて然るべきより良い試みといえるだろう。唯，欲をいえば，これを見開きの中に対照して収めればもっと利用し易かったろうと思われる。なお，マライ・ポリネシア語全般にわたって tense の表し方がさほど厳しくなく，ジャワ語もその例に漏れないが，副詞の lagi が英語の -ing に当るとして，Kowé *lagi* ora môtjô "you're not reading" のような例を示しつつ (p. 50, p. 427), Wông kuwi ora môtjô "That man isn't reading" (p. 317) の如き不統一を来たしているところもある。又，この著者は Locative forms という新しい項目を設定して，その中に受動形，能動形を分類しているが，その他にこれまでオランダ人によって "accidenteel Passief" と呼び習わされてきた k(e)…(an) をも含めさせている（マライ語にも同じ用法がある)。しかし，発生的にも機能的にもこれは本来の受動形とは異る。Aku kélingan (←ilang) mugômugô. (Ng.) ≪私は希望を失った≫。更に語根を名詞化する機能もある。kewarasan (←waras) ≪健康≫。それ故に p. 437 に掲げられたこの項目の用法一覧表にも，k(e)…(an) は省いてあるが，元来，別に考察すべきものであろう。この用法は，発生的に自然界に存在する或る大きな力によって人間の無意識の内に引き起された行為を表現したと考えられ，その表現様式は今も残っている。

本書は，一貫して現在の日常会話を教えるのに目的があり，ジャワ文字など一切掲げていないし，又，それに伴うジャワ文学の例も殆んど載せられていない。これがこの大冊をして少々，物足りなさを感じさせる所以であるが，それを別にすれば，生きたジャワ語学書として推薦するに価する。（崎山　理）

E.C.J. Mohr & F. A. van Baren: *Tropical Soils. A Critical Study of Soil Genesis as Related to Climate, Rock and Vegetation.* Amsterdam, 1953. xiii＋473＋ix p.

共著者の一人 E. C. Mohr はオランダの土壌地質学者で，1905年から1920年にかけてバイテンゾルフ植物園の土壌地質研究所長として当時のオランダ領イン